

# 竹田市新生ビジョン ~先進的市政：TOP運動による竹田市の新生~

**TOP懇談会・TOPミーティングを中心とした対話行政が生み出した成果**

**■地域力■**

- ◇ふるさと帰帰支援センターと協力協定、農村帰帰宣言市(全国初)
- ◇空飛ぶ百人プロジェクト、川端康成記念講演会の実施
- ◇白水ダム周辺整備事業を核とした農業文化遺産と農村景観の活用
- ◇エコミュージアム構想と地域拠点の公民館分館再生
- ◇コミュニティ交通の維持確保と利便性の向上
- ◇櫻鳴フォーラムによるローカル外交の基礎づくり
- ◇荻町の小規模特別養護老人ホーム開設

**■人間力■**

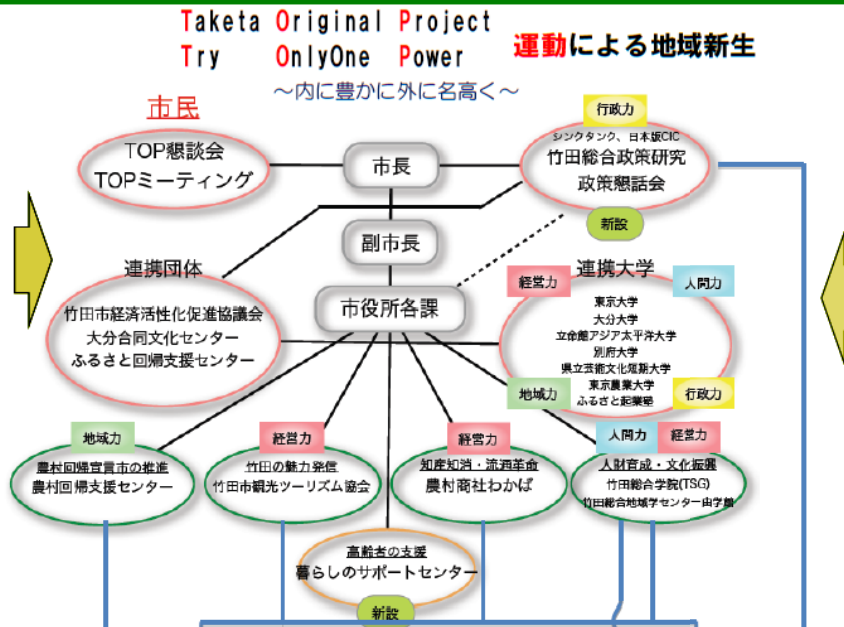
- ◇温泉療養を活かしたモニターツアー実証実験(観光庁)
- ◇竹田総合地域学センター由学館の設立
- ◇竹田市立こども診療所の開設による小児医療の充実
- ◇任意予防接種ワクチン5種類の無料化(全国市で初)

**■経営力■**

- ◇農村商社わかばの設立と道の駅まごう設立、道の駅竹田拡充
- ◇総合農産加工場の整備
- ◇竹田温泉花水月のリニューアルと再生
- ◇パッケージ事業による食育ツーリズム大作戦
- ◇久住高原に観光企業の復活と新生
- ◇医療分野の観光キュアマイ研究や水資源活用型企業の進出

**■行政力■**

- ◇「TOP懇談会」「TOPミーティング(まちづくり100委員会)」の開催
- ◇地域審議会の充実強化による民意反映
- ◇「政策審議官・事務所長」「竹田大使・竹田特命大使」の情報戦略
- ◇県内4大学と協力協定を活用した交流連携、東京大学共同研究



主な国の関連施策
<p><b>【新成長戦略】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ライフ・イノベーションによる健康大国戦略</li> <li>○グリーン・イノベーションによる環境・エネルギー大国戦略</li> <li>○農林水産分野の成長産業化</li> </ul>
<p><b>【内閣府】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア段位制度(日本版NVQ)</li> </ul> <p>時代の要請にあった人材を育成・確保するため、実践的な職業能力育成・評価を推進する。具体的には新たな成長分野である「介護」「環境」「6次産業」の3分野である。</p>
<p><b>【農水省】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未来を切り拓く6次産業創出総合対策(23年度予算、129億円)</li> </ul> <p>農山漁村の活力維持・再生に不可欠な6次産業化の取り組みを推進し、新たな市場価値・付加価値を創出、雇用の確保と所得向上を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食と地域の交流促進対策交付金(23年度予算、17億円)</li> </ul> <p>食を中心とした豊かな地域資源を活かし、集落ぐるみでの都市農村交流を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(23年度予算、183億円)</li> </ul> <p>農山漁村活性化法に基づき市町村が作成した定住・交流促進のための活性化計画の実現に必要な施設整備を中心とした総合的取り組みを支援。</p>
<p><b>【総務省】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○緑の分権改革の推進(23年度予算、22億円)</li> </ul> <p>地域資源を最大限活用し、中央集権型の社会構造を分散自立・地産地消・低炭素型とすることで、「地域の自給力と創富力を高める地域集権型社会」の構築を目指す。</p>
<p><b>【厚生労働省】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護・福祉・医療等の分野における雇用創出(23年度予算、104億円)</li> </ul> <p>介護・福祉・医療等の分野について、雇用創出の基金等の活用や、事業主に対する人材確保の支援等の実施により、地域における雇用創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新パッケージ事業(23年度予算、234億円)</li> </ul> <p>雇用創出に向けた地域の意欲が高い地域雇用創出効果が高いものを選択し、当該協議会等に対しその事業を委託し実施することにより、地域における雇用創出の推進を図る。</p>

**“竹田らしさ”への気づき**

**地域力**

- 農村帰帰宣言市と移住定住の推進  
少子・高齢化、過疎化の克服、コミュニティの再生につながる政策として、全国に先駆け平成21年6月に「農村帰帰宣言」を行う。希望者に対するサポート態勢や支援制度により、移住・定住の促進を目指す。
- エコミュージアム構想と城下町再生プロジェクト  
歴史的遺産や文化・芸術において全国区のポテンシャルを持つ竹田市、日本初の農業土産産に認定された白水ダムの周辺整備とともにエコミュージアム構想を構築する図書館建設構想を中心とした城下町再生プロジェクトを東京大学大学院景観研究室と連携して進める。また、岡藩七万石の歴史を扱った城下町が、平成24年に400年を迎える。エコミュージアム構想として、城下町再生と周辺部の農業文化と農村景観を活かした空間の再生を目指す。
- 高齢化社会への対応と暮らしのサポート  
高齢化社会対策として、高齢者向けの配食サービスや、安否確認など日々の安心した暮らしに欠かせないサービスを確立コーディネートできる仕組みとして「暮らしのサポートセンター」のシステム構築を検討する。また、農村帰帰推進事業とも連携し、良好な地域コミュニティの再生もあわせて構築していくことを目指す。
- バイオマスタウン構想による環境保全とエネルギー政策  
廃食油の分別回収による燃料化や森林バイオマスの活用、竹葉などのイベント等で使用した竹のたい肥化・飼料化により、竹の有効活用を図る。

**グローバルな人材育成**

**人間力**

- 温泉活用による予防医学  
竹田市において温泉療養を体験し、その効果を実感できる環境づくりを推進する。また、温泉療養地としての位置づけを明確にして、温泉を活用した予防医学を推進する。温泉を活用した地域活性化を目指す。
- ローカル外交による国際交流  
ドイツ・バートクロイツィンゲン市やライブツィヒ市、ロシア・サンクトペテルブルグなど、竹田市の歴史や先人顕彰におけるゆかりの地とローカル外交を展開し、国際交流と人材育成によるグローバルな地域振興を目指す。
- 地域学の推進と由学館の展開  
歴史を学ぶ本当の妙味は、学び、知るという範囲を超えて、そのことを今、いや未来を生きる者の羅針盤にすることにある。事実の羅列を学ぶに留まらず、その知恵や歴史的背景をうまく分析して、今に生かすこと。総合地域学の研究と地域づくりの実践、国内外の人々との交流・連携を通して、地域に自信と誇りを持ち、地域を担う人材を創出し、市民の生活と文化の向上を図る。
- 少子化に挑戦する健康医療  
小児医療を典型とする医師不足による地域医療の危機的状況を克服し、こどもを産み育てやすい街にするため、平成21年に「市立こども診療所」を開設。また、市では全国初の5種類のワクチン全額補助を始めた。健康医療の独自施策で少子化に挑戦していく。

**世界に通用する価値の提供**

**経営力**

- 複合型アグリビジネスと新ブランド戦略  
6次産業化と関連した竹田版複合型アグリビジネスの展開や竹田市の地域資源を有効に活用した「新ブランド戦略」を目指す。また「知産知消」の信頼関係により経済交流を広げ、農業系の進出企業を活かした地域ブランド化を目指す。畜産では豊後牛のブランド化と肥育拠点の整備を目指す。
- 農村商社わかばの発展  
竹田市の農産物や地場産品を使用した加工品の販路開拓を行う。竹田事務所長との連携による都市部での竹田ブランドの流通の仕組みの構築(流通革命)、また全国の消費者に安全・安心な産品を提供する「知産知消」を主体としたブランド化を図る。
- 竹田総合学院(TSG)構想の推進  
竹田に埋もれた歴史・文化の再発見と、竹田に根付いた人材育成・起業・就業支援の2本柱で事業を展開し、農村帰帰宣言による移住定住促進と雇用創出を目指す。大分合同新聞文化センターとの連携により事業を開始する。
- 医療・福祉分野の産業振興  
本市と理念が一致する企業を積極的に誘致し、株式会社キューメイ研究所をはじめ、肺炎バクテリアなど進出企業や連携企業のノウハウを活かし、温泉療養や予防医学を推進する。今後大学との産学官交流も目指し、竹田市の政策課題である福祉・医療をテーマにした企業誘致と地場産業の振興を目指す。

**政策立案能力の強化**

**行政力**

- 政策立案の実践と竹田総合政策研究  
官民が一体となったまちづくり機関「竹田研究所」を母体に、地域課題の調査・研究から政策研究・情報発信機能を持つシンクタンクとしての竹田総合政策研究機関を目指す。政策懇談会なども連携した政策立案能力の強化を図る。
- 対話から生み出される政策と周辺地域振興策の強化  
竹田市は、それぞれの地域が違った自然環境や歴史文化などの個性を持っており、ポテンシャルの高さを活かした個性あふれるまちづくりを実現していく。政策の展開のプロセスでは、「対話なくして政策なし」を基本に、市民のニーズやアイデアを政策化し、実践に移していく。また、周辺地域の拠点である支所などの公共施設を有効活用し、地域の個性を活かした振興策を強化する。
- 政策審議官、竹田事務所長のマンパワーとネットワーク  
非常勤特別職の政策審議官及び竹田事務所長を任命し、マンパワーを活用し、竹田市が推進するプロジェクトや政策課題に対する専門的な見地からの協力支援及び市外における情報発信・人的ネットワークの強化を図る。
- 大学連携と産学官連携の推進  
竹田市はこれまで、竹田市のTOP運動に基づくオリジナルアイデアあふれるオンリーワンの政策推進にあたり、「大学のないまちに大学生があふれ、学びあう竹田」をキャッチフレーズに、県内4大学と協力協定を締結している。大学等の人的・知的資源の活用による学術的ノウハウの提供と、竹田市の潜在能力や価値を学術研究のフィールドとして提供・協力することにより、相互に連携した課題解決と相互の発展、また地域を担う人材の育成を目指している。